

公的年金制度の意義と価値

～任意加入の民間保険ではあり得ないメリット～

参議院議員
辻 泰弘

- 確実な自らの老後への備え
強制徴収でなければ、若い頃から老後に備えることは至難
- 親の世代に対する「仕送り」を社会全体で支える機能
年金制度がなければ、同居や直接的な仕送りによって経済的な面倒を見なければならぬ(あるいは「放置」することもありえようが…)。
「同居」に伴う負担は少なくない。直接的仕送りは高くなる。
- 障害年金、遺族年金の機能を年金制度の中に内包
障害を負ったり、世帯主を失ったりした場合の所得保障機能を具備
- 国庫からの助成
国庫負担により老後の基礎的消費支出を賄う基礎年金を下支え
- 税制上の優遇措置
拠出時(社会保険料控除)、給付時(公的年金等控除)の税制上の配慮
- 給付は終身年金 生きている限り一生涯の年金給付を保障
- 物価スライドにより、裁定後の物価変動に年金額を対応させる機能
- 被用者年金制度における保険料負担の労使折半
公的年金制度でなければ、使用者の拠出の義務なし
- 標準報酬を賃金上昇率で再評価 (物価上昇率より平均的に高い)
- 所得代替率の目標設定により年金給付の水準を国民全体に保障